

3. プレゼンテーション

今回、私たちは高知県を元気にすることをテーマにアンケートをとりました。その結果をもとに生徒会で話し合い、まとめたものを今から発表します。

アンケートをとった結果、問題点で一番多かった意見が、「仕事が少ない」ということでした。このことを話し合ってみると、地元には仕事はあるけれど、自分たちがやりたい仕事が少ないということでした。

私たちのやりたい仕事には資格が必要です。医療や美容、調理等、資格を取るためにどうしても四万十町を離れなければなりません。しかし、将来は四万十町へ帰ってきたいと考えています。ですが、帰郷した際、働く場所が少なく、町に活気がないと寂しく感じます。やはり、自分たちの育った町は元気であって欲しいのです。

全校生徒の意見は、大きくふたつに分かれました。

商業的に発展させたい (四万十町出身生徒)

- 会社を増やす
- 観光業を増やす
- 助成金を増やし会社を手助けする
- お店を増やす
- 高校・大学を増やす

良い所を伸ばす (県外出身生徒)

- 今ある四万十町の魅力を特化する
- 自然に関する仕事を増やす
- 農業の仕事を増やす
- 今ある特産物や、新しい特産物を作りアピールする

まず、ひとつ目は、「商業的にまちを発展させたい」という考えです。この意見は、主に四万十町出身生徒から多く出ました。会社を増やす。観光業を増やす。助成金を増やし、会社を手助けする。お店を増やす。高校・大学を増やす。

観光業を増やすという意見は、具体的に観光スポットを増やし、仕事や人を集めるということでした。お店を増やすという意見は、具体的に四万十町にコンビニやデパートを設けるというものでした。

ふたつ目は、「良いところを伸ばす」という意見です。この意見は、主に県外出身生徒から多く出ました。今ある四万十町の魅力を特化する。自然に関する仕事を増やす。農業の仕事を増やす。今ある特産物や新しい特産物を作りアピールする。東京などの都会は、商業を発展するために自然を犠牲にしてきました。高知県は、今のままで環境を守り、四万十町の魅力を特化したほうが良いということでした。第一次産業を盛り上げ、四万十町に良心市や、地産地消のレストランをつくるのが、四万十町を元気にすることにつながると思います。

高校生としては、コンビニや大型ショッピングセンターは確かに欲しい。しかし、ショッピングモールが建つことで地元にあるお店の経営が困難になり潰れてしまい、そして、

ここの雰囲気や自然が失われてしまうのは嫌です。

見方を変えてみると、私たちも含め、地元生は気付いていませんでしたが、四万十町の魅力はたくさんあります。だから、自然や魅力が失われてしまうようなショッピングモールは要りません。帰って来たいと思う地元、変わらない風景であって欲しいのです。

これが、私たちの残したい地元の風景です。

①の写真は、大奈路にあるお茶堂です。ここでは観光に来た人たちや地元の人たちが休憩をとったりします。

①



②



②の写真は、十川の鯉のぼりの川渡しです。この鯉のぼりは全国的にも有名で、約500匹の鯉のぼりが泳いでいます。鯉のぼりの下では、「よってこい四万十」というお祭の準備がされています。

③の写真は、昭和にある三島キャンプ場の写真です。この日は雨が降った次の日だったので水が濁っていますが、普段は青く澄んでいてとても綺麗です。私たちが毎日使っている汽車の線路もここに写っています。

③



④



④の写真は、夕方に撮っているので霧が多く、あまり見えないと思いますが、川の写真です。

⑤の写真は、中之島公園という看板が素敵だと思って載せました。

⑤



⑥の写真は、私たちがマラソンコースで走る場所です。この写真では、川が濁っていますが、普段は青くとても綺麗です。赤鉄橋も写っています。

⑥



アンケートや話し合いを参考に、誰もが行きたくなくなる四万十町を目指すためにはどうすればよいかについて、生徒会のメンバーで話し合いを行ないました。そして、四万十町をアピールするためにこんな案を考えてみました。

○ドラマ作り。四万十町をロケ地にしたドラマ制作を行なう。例えば、NHK連続テレビ小説などで四万十町を舞台にしたドラマを撮ってもらい、興味をもってもらう。

○AKB48のようなアイドルグループを、四万十町から発信する。歌って踊って、四万十町をアピールします。

○四万十高校と企業がコラボをする。実際に道の駅とおわの社長のほうから、四万十高校

とコラボをしたいという意見がありました。

○商品開発。四万十檜を使ったお箸や弁当箱の、デザインから開発までを自分たちで手がける。

○地元の野菜を使った新たな料理のレシピを作る。

○お店経営。高校生が中心となって考えた商品を、高校生が交替制で販売を行う。

アピールの方法としては、現在、アスマラソンでがんばっている高知県出身の間寛平さんを応援するために、私たちの考えた商品を送り、テレビ放送されることを狙いたいと思っています。

○よさこいに四万十高校全生徒で出場する。また、四万十町で開催されるイベントにも参加し、四万十のアピールをする。

このような取り組みを四万十町が積極的に行なうことで、近隣の市町村に良い影響を与えられるはずです。そして、最終的には高知県全体に広がっていくと考えています。四万十町を元気にすることが高知県全体を元気にすることにつながると思います。

以上で、私たちのプレゼンテーションを終わります。実現することが難しいものもあったと思いますが、高校生の斬新なアイデアを是非参考にしてみてください。ご清聴ありがとうございました。

知事： 今、お話の中でふたつの意見があったということでしたよね。良いところを伸ばす派と、商業的に発展させたいという派とに分かれたというお話がありました。多分、最後は意見が一致してきたのかもしれないですけど。結局、良いところを伸ばすことで、商業的に発展させるということになっていくんだろうと思います。

会社を増やそうと行って、何も無いところに無理やり会社をつくっても、うまくいかないだろう。観光業を増やすと行って、何もなくて観光業というわけにいかない。やはり良いものを武器にして、観光を発展させる。そういうことになるんでしょうから。

結局、良いところを伸ばすということに、みんなも意見は一致してきました？ 最後まで対立していた？

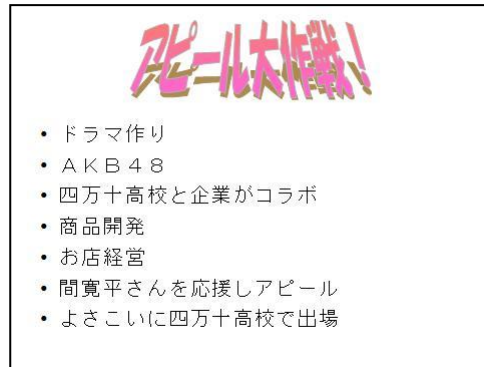
生徒： 全校生徒で話し合った結果では、県外生と地元生に分かれてしまったんですけど、それは、生徒会メンバーで話していたら、やはり、地元の良いところを伸ばして、それで商業的に発展していこうという考えになりました。

知事： そうなんですよね。私もそう思います。

それで、さっきお話のあったところで、資料の中にアピール大作戦で、四万十高校と企業がコラボという話、あるじゃないですか。その下に商品開発というのがありますよね。私は、他の高校でそれをやってもものすごくがんばっておられるところをひとつ

知っているんです。

「はりまや箸」って知っています？ 播磨屋橋は橋だけど、その「橋」を「お箸」にかけて、「はりまや箸」というのを、高知商業高校の学生さんが作って、今、はりまや橋商店街で売っているんです。それから、大丸の前に「てんこす」というアンテナショップができたんだけど、そこでも、売ったりしています。



なかなかがんばって商品づくりして、販売しているので、高校生の皆さんにぜひ、商品開発をがんばってやってもらいたいなというふうに思います。

資料のうち、その下にお店経営というのものもあるし、企業とコラボというのもの、あるでしょう？ 例えば、お店の経営といっても、「四万十とおわ」の道の駅。あの道の駅は、高知県の道の駅の中でも、素晴らしいと有名なところなので、そんなところとタイアップしたらおもしろいだろうと思います。

ドラマ作りをする時に、何をテーマにしてドラマ作りをしようと思っていますか？

生徒： 四万十町を舞台にして、自然や、四万十高校も話の内容に加わってくるような、全体的に四万十町をアピールできるような感じになりたいなと思います。

知事： ドラマ作りにしても商品開発にしても何にしても、もともと、ここはそういうドラマになるところだと思います。例えば四万十川というドラマの舞台として最適な素晴らしい自然があって、食べるものでもおいしいもの、商品開発の種になるものが、たくさんあるんだろうと思います。

地元には仕事が無い。何も無いところだから、もう本当につまらない、というふうにおっしゃる方を、たまに聞くことがあるんですけど、そんなことは決してない。実は、大きく伸びて発展していくための種となるものは、身近に転がっているんじゃないかなと思います。是非、そういうものを見つけていただいて、ドラマ、商品開発、お店の経営、そういうものに発展させていけるようになっていけばいいですね。

四万十ドラマの社長さん、スタッフの皆さんは、まさにそれを一所懸命やっておられる方々です。新聞バッグがものすごく有名ですけど、あとはもうひとつ、四万十の栗を使っているんな商品開発とかをされて、県外でもアピールされているでしょう？

東京銀座に「めざましシェ」というのができていますが、その中四国のブースの中でも、四万十のブースがフェース（陳列スペース）が広く、一番アピールしているんです。それぐらい、この四万十川周辺というのは、全国的に知名度、アピール度のあるものだと思うので、是非それをどう生かしていくか、より具体的なところで考えていってほしいなと思います。私たち大人も、一所懸命やっていきたいと思っています。

ます。

教育長： 最初に、県外から来られている生徒さんと、地元の生徒さんが、思いが違っていた、見る視点が違っていたというのは、逆に言うと、この四万十高校に県外から生徒さんが来られ、そこで交流があり、価値観やものの見方の違う者が集って議論をし、次へ進んで行くということ。こういうことをされているこの四万十高校は、すごく良いところだと思いました。